

---

— ◆ 2020年度共同研究グループ 経過報告 ◆ —

## 音声研究と音声教育

小松 雅彦 / 相原 昌彦

本研究グループでは、幅広く音声とその教育についての研究を行っている。本年度は、コロナ禍のため研究を継続することが難しい状況にあったが、学生と共同で、3つのトピックについて研究を開始している。

声の大小が聞き手に与える印象が言語によって変わるのかどうか、商品名などに使われる言語音の印象の性別・世代別の差、動物の鳴き声とそれを表す擬声語との関係を調べている。

これらは、いずれも、音の持つ印象についての研究である。ソシユール以来の言語学では言語音と意味との関係は恣意的であるとされるが、実際には音象徴のようなものがある。音声学や言語学で着目されることの少ない音象徴やその他の印象についての研究を進めていきたい。

